

新年に向けて 雑感



すべての人に黄金の光が届きますように。

昨年は、コロナ禍の中で細心の注意を払いながら、つながりを大切に会議や、サロン、焼きそば屋を開いてきました。若者とピアサポーター・美作大生のエネルギーに支えられて元気をとりもどした年になりました。

「8050」問題に目を向けると、多くの悲しい出来事が目に入ります。他人事とは、思えない切実な相談も受けます。私たちの思いは、はっきりしています。自分自身を大切にしつつ、家族や他者への思いを大事にしながら幸せを感じて生きることです。

昨年のピアサポーターの方たちの活動から、新年に向けて様々な明かりを感じてきました。自分の体験を誰かのためにいかしていきたいと言う若者の声をききます。心強い限りです。行政とのつながりも大切にしつつ

「不登校、ひきこもり」という社会の歪から生じた問題を、根底から見直しその人本来の生き方を発見し大切にしていける大きな渦を作りたいものです。すべての人が、光に包まれた幸せな年でありますように祈ります。

(川島和子)

イオンの黄色いレシート」のお願い「津山きびの会」のボックスへ



相手の言葉を大切にすると見えてくるものがある

令和3年12月にKHJが主催するピアサポーター継続研修を受講しました。全国で活動されているピアサポーターさんの様々な意見を聞かせていただきました。1日目に受けた傾聴講座で学んだことをお話しします。



昨年受けたピアサポーター講座でも傾聴に関して学ぶ機会がありましたが、家族や友達、職場の人など日常的に接する人達の話を受講することは難しいと強く感じていましたので今回再び学ぶことが出来て嬉しいです。関係性が近くなるほど、つい自分の考えを押し付けてしまいそうになる。しかし、傾聴するという事は相手の正直な気持ちを否定せずに受け入れること。言葉だけでは読み取れない視線やしぐさ、沈黙など非言語の部分を聴くことも大切だと学びました。

一人ひとり世界観が違い共感も寄り添い方も人それぞれとお聞きして、ピアサポートだからこそ自分なりの傾聴の仕方がある。自分に出来ることは何だろうと自問自答しながら日々いろんな人と接する事によって何か見えてくるものがあるんじゃないかと思いました。

そのために日頃から丁寧に人間関係を築き、相手の気持ちを考えることを心掛けたいです。傾聴講座を受けて自分の考えや気持ちを洗い出すきっかけになりました。今後のピアサポーター活動でも学んだことを活かせるよう試みます。
(木下)

厚労省は「ひきこもり地域支援センターの設置を目指す」全ての中核都市) 為に「ひきこもりサポート事業」から「ひきこもり支援ステーション(仮称)」に移行を段階的に目指す。(4年度概算要求額 31.7 億円)

ひきこもりサポート事業内容(厚労省4年度「ひきこもり支援」関連施策より) 事業内容(①～③は必須)

- ① 相談支援(窓口周知)②居場所づくり③ネットワークづくり④家族向け勉強会・当事者会の開催⑤サポーターの派遣⑥民間団体との連携活動⑦住民等への講演会・研修の開催⑧実施把握⑨サポーター養成研修の実施

(厚労省ホームページより)